



2026

# 学校だより **本荘** *Smile*

令和7年度 第42号  
令和8年3月5日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

## 1、2年生と動物園見学に行ってきました。天気もよく見学旅行日和でした。



まだまだ2学期の話題が続きますが、10月の終わりに、1、2年生と見学旅行に行ってきました。この日はお天気もよく、こどもたちは大変楽しく一日を過ごしたのでした。

毎年、1、2年生は生活科で熊本市動植物園に出かけます。本荘小の生活科は1、2年合同でやりますので、2年間連続で行くことになるのです。熊本市の小学校1年生は、ほとんど動物園に行くのだと思います。なぜなのでしょう。

その主な理由は、低学年では生活科、中学年では理科の授業の一環として、実物を通じた観察や体験学習を行うためです。

具体的に言いますと、まず、生き物の観察と生命への

理解というのがあります。動物の体のつくりや生態について学ぶことで、命の大切さを学ばせるためです。本荘小学校では、命のつながりというコンセプトで3年生の牧場見学や動物病院の見学にもつながっています。

次に、公共施設の利用マナーの習得という目的があります。本荘小では、低学年の頃から公共の交通機関で見学旅行に行きます。この動植物園もそうですし、農業公園カントリーパークへの見学旅行も電車とバスを乗り継いで行くのです。動植物園も熊本市電に乗って行きました。公共交通機関でのグループ行動を通じて、社会のルールやマナーを学ぶのです。キャリア教育の面からも意味があります。(裏面に続きます)

飼育員さん方の仕事について学び、動物たちがどのような環境で育てられているか知ることによって職業への理解を深めるのです。そして、なんとといっても、熊本市内の身近な施設を利用することで、郷土への理解を深めるためです。1、2年生の「生活科」の行先として定番となっているのはそのためです。

また、費用の面でもメリットがあります。熊本市内の小中学生は名札や生徒手帳を提示することで入園料が無料になるのです。そのため、学校行事として利用している学校が多いのです。この日は、高校の美術科の生徒たちが合同でスケッチの学習に来ていました。（最近の高校生は、絵がうまいなあと感心していたのですが、全

員、各校の美術科の生徒さんでした。うまいはずですよ。笑）。動植物園側もこどもたち向けの「学習プログラム集」を整備していて、教育現場と連携したプログラムが提供されているのです。

この日はお天気もよい秋晴れで、こどもたちは楽しく過ごしていました。都会の大きなテーマパークもよいものですが、身近な動物園、植物園に行くことで楽しい時間を過ごすことは、こどもたちの学校教育、家庭教育、社会教育といったすべての教育活動により影響を与えるのだと思った校長先生でした。帰りの電車ではぐっすり笑ったそうです。この後、こどもたちは図工で動物の絵を描いたのですが、とても上手でしたよ。（校長

### 校長先生の虫眼鏡「熊本市動植物園について」

今回、ご紹介した熊本市動植物園ですが、その昔「水辺動物園」といわれていたことをご存じでしょうか。私が子どもの頃ですから、50年以上前になりますね（笑）ですので、その歴史についてフォーカスしてみました。

熊本市動植物園は、2029年に開園100周年を迎える非常に歴史のある施設です。

1929年（昭和4年）7月26日、「熊本動物園」として水前寺成趣園（水前寺公園）の東側に開園しました。（水前寺にあったんですね。）日本で6番目、九州では最初の動物園でした。（九州初なんですよ！）しかし、第二次世界大戦中の1945年に一時閉園を余儀なくされました。1969年（昭和44年）、都市化に伴う拡張のため、現在の場所である健軍（江津湖畔）に移転しました。1991年（平成3年）には植物園エリアがオープンし、現在の名称である「熊本市動植物園」となりました。2016年4月の熊本地震で甚大な被害を受け、液状化や猛獣舎の損壊などにより長期の全面休園を余儀なくされました。しかし、他県の動物園へ一部の動物を避難させるなど苦難を乗り越え、2018年12月に約2年8か月ぶりとなる全面開園を果たしました。

「水辺動物園」という名称は、確かに使われていたことがあります。1969年（昭和44年）に水前寺から現在の江津湖畔へ移転した際、江津湖の豊かな水に囲まれた立地から、しばらくの間「水辺動物園」という愛称を冠して親しまれていました。現在では「熊本市動植物園」が正式名称ですが、今でも園内や周辺施設にその名残が見られます。移転当時のコンセプトが「水辺の動物園」であったため、年配の方（校長先生です 笑）や地元の歴史に詳しい方の間では今でもその呼び名で通じることがあります。熊本市動植物園が「水辺動物園」と呼ばれていたのは、水前寺から現在の江津湖畔に移転した1969年（昭和44年）から、1991年（平成3年）ごろまでの約22年間です。

歴史的な経緯は以下の通りです。

1969年（昭和44年）に、水前寺での40年の歴史に幕を閉じ、現在の江津湖畔へ移転。移転を機に、水辺の立地を活かした「水辺動物園」という名称で再スタートを切りました。

1991年（平成3年）：植物園エリアがオープンしたことに伴い、現在の正式名称である「熊本市動植物園」に改称されました。現在も、江津湖の自然や歴史を紹介する園内施設「水辺のインフォメーションセンター」などにその名残が見られます。

